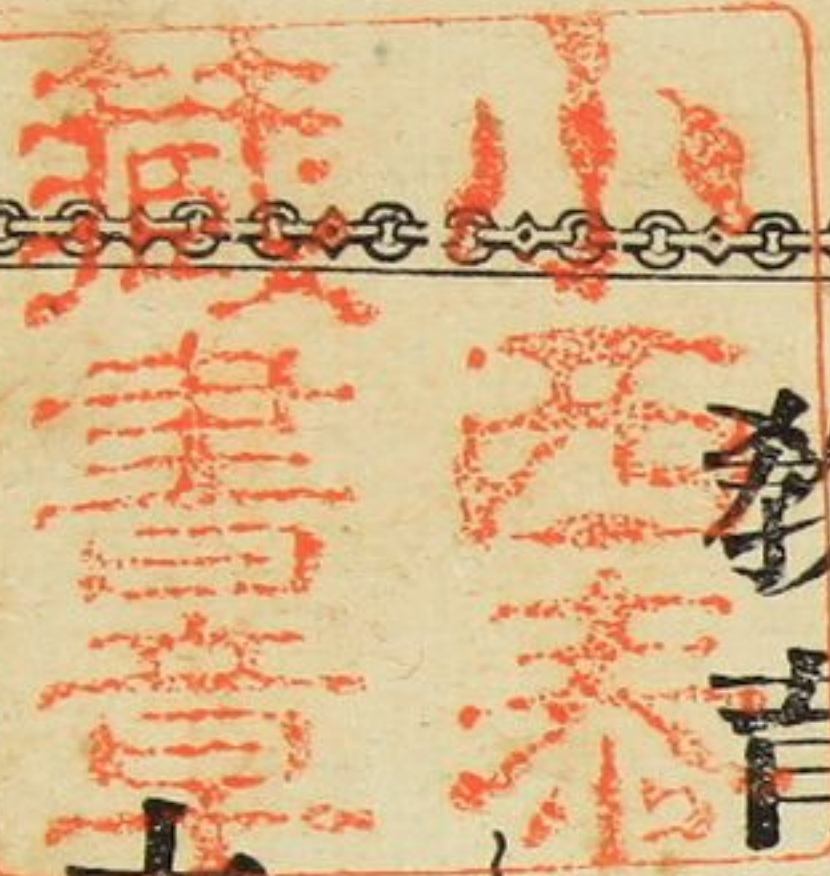




地 理 教 育
鐵 道 唱 歌
第 三 集







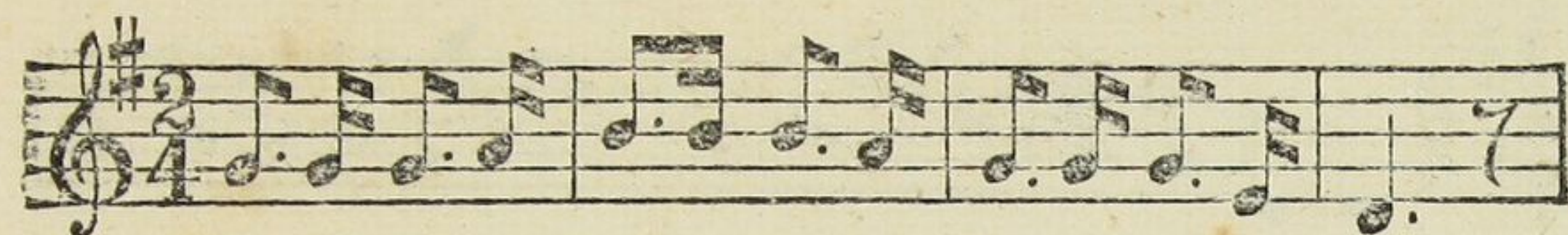
地理教育
鐵道唱歌
第三集

東京華族女學校教師 奧好 義作曲

東京音樂學校助教授 田村虎藏作曲

大和田建樹作歌

鐵道唱歌 (三集) 多梅稚作曲



1. 1 1. 2 | 3. 3 3 2 | 1. 1 1 6 | 5. 0 |
 キー シャ ハ ケ ム リ ナ ハ キ タ テ テル
 オー シ ジ ニ ッ ム キ テ ア フ ギ ミ ル
 ア カ バ 子 ス ギ テ ウ チ ワ タ ル



6. 6 5. 6 | 1. 1 3. 3 | 2. 2 1. 2 | 3. 0 |
 イー マ ソ ウ ヘ ノ ナ イ デ テ ユ ク
 モー リ ハ ヲ ナ ノ シ ア ス カ ヤ マ
 ナ モ ア ラ カ ワ ノ ー テ ツ ノ ハ シ



5. 5 5. 5 | 5. 5 6. 5 | 3. 1 2. 3 | 2. 0 |
 エ ク ヘ ハ イ ー ヅ ク ミ チ ノ ク ノ
 カ ワ ラ ケ ナ ナ ー ゲ テ ア ソ ビ タ ル
 ソ ノ ミ ナ カ ー ミ ハ チ チ プ ヨ リ



1. 2 3. 3 | 2. 2 5. 5 | 3. 3 2. 2 | 1. 0 |
 ア チ モ リ マ デ モ ー ヒ ト ト ビ ヅ
 エ ー ド ノ メ イ シ ョ ノ ソ ノ ヒ ト ツ
 イ ー デ テ ス ミ ダ ノ カ ワ ト ナ ル

地理 鐵道唱歌 第一集 東 海 道
 地理 鐵道唱歌 第二集 山 陽、九 州
 地理 鐵道唱歌 第三集 東 北 地 方
 地理 鐵道唱歌 第四集 北 陸 地 方
 地理 鐵道唱歌 第五集 畿 内 及 隣 邦
 地理 世界唱歌 全二册 新 刊

鐵道唱歌 (三集) 田村虎藏作曲

〔或はへ調〕

5・5 1・1 | 3・3 2・1 | 5・3 | 2・1 2 0 |

キシヤハニケムリチハキタテル
カ一ツスギテアウチワギタ

3・3 2・1 | 6・6 1・6 | 5・6 | 5・3 5 0 |

イマリゾ一ウヘノチイデテカユク
モリハ一ハハノシアスツカハ

6・6 5・6 | 1・2 3・3 | 2・1 | 6・1 6 0 |

ユクヘハイヅク一ミチノクノ
カハラケナカゲテ一チソビタリ

5・5 6・6 | 3・3 5・5 | 2・1 | 3・2 1 0 |

アチモリマデモ一ヒソトトビツ
エドノ一メイショノカワトヒトナ

奥州線—磐城線

一 汽車は烟を噴き立て、ゆく
今ぞ上野を出て、ゆく
ゆへは何く陸奥の
青森までも一飛に
王子に着きて仰ぎみる
森は花見し飛鳥山
土器なげて遊びたる
江戸の名所の其一つ

上野 田端 王子

三 赤羽^{あかばね}すぎて打ちわたる

名^なも荒川^{あらかわ}の鐵^{てつ}の橋^{はし}

その水^{みづ}上^{かみ}は秩父^{ちちぶ}より

いで、墨田^{すみだ}の川^{かわ}こなる

四 浦和^{うらわ}に浦^{うら}は無^なけれども

大宮^{おほみや}驛^{えき}に宮^{みや}ありて

公園^{こうえん}ひろく池^{いけ}ふかく

夏^{なつ}のさかりも暑^{あつ}からず

赤羽

蕨

浦和

大宮

五 中山道^{なかやまのせんだう}と打^{うち}わかかれ

ゆくや蓮田^{はすた}の花^{はな}ざかり

久喜^{くき}栗橋^{くりはし}の橋^{はし}かけて

わたるはこれぞ利根^{とね}の川^{かわ}

六 末^{すま}は銚子^{ちうし}の海^{うみ}に入る

坂東^{はんとう}太郎^{たろう}の名^なも高^{たか}し

みよや白帆^{しらほ}の絶間^{たえま}なく

のぼればくだる賑^{にぎはひ}を

蓮田

久喜
栗橋

七 次つぎに來きたるは古河こが間々田ま・だ

兩手りやうてひろげて我汽車わがきしやを

萬歲ばんざいと呼よぶ子供こどもあり

おもへば今日けふは日曜にちようか

八 小山こやまをおりて右みぎにゆく

水戸みづとと友部ともべの線路せんろには

紬産地つづみの結城むすきあり

櫻名所さくらの岩瀨いわせあり

古河
間々田

小山

結城

岩瀨

九 左ひだりにゆかば前橋まへはしを

經へて高崎たかに至いたるべし

足利あし桐生きり伊勢崎いせは

音ねに聞きえし養蠶やうさん地ち

一〇 金きんと石いしとの小金井こがねや

石橋いしはしすぎて秋あきの田たを

立たつや雀すずめの宮鼓みやつづみ

宇都宮うつのみやにもつきにけり

足利
桐生

伊勢崎

小金井

石橋

雀宮

宇都宮

二 いざ乗り替へん日光の

線路これより分れたり

二十五マイル走りなば

一時半にて着くといふ

三 日光見ずは結構と

いふなこいひし諺も

おもひしらるゝ宮の様

花か紅葉か金欄か

・日光

三 東照宮の壯麗も

三代廟の高大も

みるまに一日日ぐらしの

陽明門は是かこよ

四 瀧は華嚴の音たかく

百雷谷に吼え叫ぶ

裏見霧降こりぐくに

雲よりおつる物すいさ

岡本
寶積寺
氏家
片岡

一五 又立ちかへる宇都宮

急げば早も西那須野

こゝよりゆけば塩原の

温泉わづか五里あまり

一六 霰たばしる篠原と

うたひし跡の狩場の野

たゞ見る薄女郎花

殺生石はいづかたぞ

矢板野崎

西那須野

一七 東那須野の青嵐

ふくや黒磯黒田原

こゝは何くも白河の

城の夕日は影赤し

一八 秋風吹くこ詠じたる

關所の跡は此ところ

會津の兵を官軍の

討ちし維新の古戦場

東那須野

黒磯

黒田原

豊原

白河

一九 岩もる水の泉崎

矢吹須賀川冬の來て

むすぶ氷の郡山

近き湖水は猪苗代

二〇 ころに起りて越後まで

つづく岩越線路あり

工事はいまだ半にて

今は若松會津まで

泉崎

矢吹
須賀川

郡山

・若松

二二 日和田本宮二本松

安達が原の黒塚を

見にゆく人は下車せよと

案内記にもしるしたり

二三 松川すぎてトンネルを

いづれば來る福島

町は縣廳所在の地

板倉氏の舊城下

日和田
本宮
二本松

松川

福島

三 しのぶもじずり摺り出だす

石の名所も程近く

米澤ゆきの鐵道は

此町よりぞ分れたる

四 長岡おりて飯坂の

湯治にまはる人もあり

越河こして白石は

はや陸前の國と聞く

・米澤

長岡

桑河
藤田

越河
白石

五 末は東の海に入る

阿武隈川も窓ちかく

盡きぬ唱歌の聲あげて

躍り來れるうれしさよ

六 岩沼驛のにぎはひは

春と秋この馬の市

千里の道に鞭うちて

すゝむは誰ぞ國のため

大河原
榎木
岩沼

増田
長町

二七 東北一の都會にて

其名しられし仙臺市

伊達政宗の築きたる

城に師團は置かれたり

二八 阿武隈川の埋木も

仙臺平の袴地も

皆この土地の産物ぞ

みてゆけこゝも一日は

仙臺

二九 愛宕の山の木々青く

廣瀬の川の水白し

櫻が岡の公園は

花も若葉も月雪も

三〇 多賀の碑ほどちらかき

岩切おりて乗りかふる

汽車は塩竈千賀の浦

いざ船よせよ松島に

岩切

・塩竈

松島船あそび

1
 コーゲヤ
 ミーグルガ
 ユーキノ
 ゴーダイ

2
 カーガミ
 マーツノ
 アーソブ
 ズ井ガ

3
 コマゲヤ
 マアシタ
 ドーチ

4
 ナセル
 スガトハ
 ヒツノ

5
 イカツミ
 ザハキギ

6
 フリノニ

7
 ナユヨシ

8
 コクハチ

9
 ウサヲカ

10
 ノノナチ

11
 ミハカリ

12
 ウイイモ

13
 ヘマンキ

(三) 雪のあした月の夜半
 あそぶ人はいかならん
 みれごとく果もなき

(四) 五大堂を右にして
 二子島の夕げしき
 瑞巖寺の森ちかき
 磯に船は著きにけり
 暫しといふ程もなく

奥好義作曲

3
 ナーミニ
 マーヘニ
 ミーレド
 イーソニ

4
 シーマト
 アーニ
 フーダ
 シーバ

5
 ウタミフ

6
 カテレ子

7
 プルドハ

8
 ハシハツ

9
 ツマテキ

10
 ビハモニ

11
 グハナケ

12
 ノヤキリ

13
 カゲホマイ

14
 モクノフ

15
 オカユホ

16
 モスフド

17
 シミゲモ

18
 ロタシナ

19
 ヤリキク

(一) こげやくいざ船子
 鏡なせる海の上
 波に浮ぶ八百の
 島の影もおもしろや

(二) 見ろがまゝに變りゆく
 松のすがた岩のさま
 前に立てる島ははや
 あとに遠く霞みたり

三 汽車きしゃにの乗のりても松島まつしまの

話はなしかしまし鹿島かしま臺たい

小牛田こぎゅうでんは神かみの宮みやちかく

新田にいつたは沼ぬまのけしきよし

三 水みづは川かは瀬せの石いしこして

さきちる波なみの花はな泉いづみ

一いちの關せきより陸中りくちゆうこ

きけば南部なんぶの舊領地きゆうりやうち

利府 松島

鹿島臺

小牛田

瀨峰

新田

石越

花泉

一ノ關

三 阿部あべの貞任さだとう義家よしかの

戰たたかひありし衣ころも川がは

金色堂こんじきだうを見みる人ひとは

こゝにておりよ平泉ひらいづみ

三 すぎゆく驛えきは七ななつ八やつ

山やまおもしろく野のは廣ひろし

北上きたかみ川がはを右みぎにして

つくは何いづくぞ盛岡もりおか市し

平泉

前澤

水澤

金崎

黒澤尻

石鳥谷

日詰

矢幅

三五

羽二重おりと鐵瓶は

市の産物と知られたり

岩手の山の峰よりも

南部の馬の名ぞ高き

三六

好摩川口沼宮内

中山小鳥谷一の戸と

すぎゆくまゝに變りゆく

土地の言葉もおもしろや

好摩川口 沼宮内 中山 小鳥谷 一ノ戸 福岡 三ノ戸

三七

尻内こせば打ちむれて

遊ぶ野馬の古間木や

今日ぞ始めて陸奥の

海こは是かあの船は

三八

野邊地の灣の左手に

立てる岬は夏泊

こまらぬ汽車のすゝみよく

八甲田山も迎へたり

劍吉 尻内 下田 古間木 沼崎 乙供 野邊地 狩場澤 小湊 淺虫

三九 渚なはらに近ちかき湯野島ゆのしまを

見みつゝくゞれるトン子とんこルの

先まづは野内のなか浦町うらまちか

浦うらのけしきの晴はれやかさ

四〇 勇ゆうむ笛ふえの音ねいそぐ人ひと

汽車きしゃは著つきけり青森あおもりに

むかしは陸路りくろ廿日はつか道みち

今いまは鐵道てつどう一晝いちしゅう夜や

野内
浦町
青森

四一 津輕つがるの瀬戸せとを中なかにして

函館はこだてまでは二十四にじゅうよ里り

ゆきかふ船ふねの煙けむりにも

國くにのさかえは知しられけり

四二 汽車きしゃのりかへて弘前ひろさきに

あそぶも旅たびの樂たのしみよ

店みせにならぶは津輕塗つがるぬり

空そらに立たてるは津輕富士つがるふじ

・弘前

四三

歸りは線路の道かへて

海際づたひ進まんこ

仙臺すぎて馬市の

岩沼よりぞ分れゆく

四四

道は磐城をつらぬきて

常陸にかゝる磐城線

ながめはてなき海原は

亞米利加までやつくらん

(歸路)

仙臺

岩沼

亘理

吉田

坂元

新地

四五

海にしばらく別れゆく

小田の緑の中村は

陶器産地と兼ねて聞く

相馬の町をひかへたり

四六

中村いで、打ちわたる

川は眞野川新田川

原の町より歩行して

妙見まうでや試みん

中村

鹿島

原ノ町

磐城太田
小高

四七 浪江なみうつ稲の穂の

長塚すぎて豊なる

里の富岡木戸廣野

廣き海原みつとゆく

四八 しばくくゝるトン子ルを

出てはながむる浦の波

岩には休む鷗あり

沖には渡る白帆あり

浪江 長塚 富岡 木戸 廣野

四九 君が八千代の久の濱

木奴美が浦の波ちかく

をさまる國の平町

並が岡のけしきよし

五〇 綴湯本をあこにして

ゆくや泉の驛の傍

しるべの札の文字みれば

小名濱までは道一里

久ノ濱 四ツ倉 草野 平 綴湯本 泉 植田

五一 道もせに散る花よりも

世に芳ばしき名を留めし

八幡太郎が歌のあと

勿來の關も見てゆかん

關本おりて平瀉の

港にやどる人もあり

岩の中道ふみわけて

磯うつ波も聞きがてら

關本

勿來

三三 あひて別れて別れては

またあふ海と磯の松

磯原すぎて高萩に

假るや旅寢の高枕

助川さして潮あびに

ゆけや下孫孫も子も

驛夫の聲におどるけば

いつしか水戸は來りたり

磯原 高萩 川尻 助川 下孫 大龜 石神 佐和

五五 三家の中に勤王の

その名知られし水戸の藩

水戸

わするな義公が撰びたる

大日本史のその功

五六 文武の道を弘めたる

弘道館の跡こへば

のころ千本の梅が香は

雪の下よりにほふなり

赤塚
内原

五七 つれだつ旅の友部より

わかるゝ道は小山線

友部

石岡よりは歌によむ

志筑の田井も程ちかし

石岡

五八 間もなく来る土浦の

岸を浸せる水海は

土浦

霞が浦の名も廣く

汽船の笛の音たえず

荒川沖

牛久
佐貫

藤代
取手

五九 雲井くもゐの空そらに耳みみ二ふたつ

立たてたる駒こまの如ごとくにて

みゆる高嶺たかねは男體だんたいこ

女體にょたいそびゆる筑波山つくは

六〇 峰みねにのぼれば地圖ちづ一つ

ひろげし如ごとく見えわたる

常陸ひたちの國くにのこゝかしこ

利根とねのながれの末すえまでも

我孫子 柏

馬橋 松戸

金町 龜有

六一 松戸まつどをおりて國府こくふの臺たい

ゆけば一里いちりに足たらぬ道みち

真間まの手兒てこ名なが跡あとこいふ

寺てらも入江いりえものこるなり

六二 車輪しやりんのめぐり速すみやかに

千住せんぢゆ大橋おほはし右みぎに見みて

環たまきの端はしの限かぎなく

ふたゝびもどる田端驛たはたえき

北千住

南千住

田端

六三 むかしは鬼の住家こて

人のおそれし陸奥の

はてまでゆきて時の間に

かへる事こそめでたけれ

六四 いはへ人々鐵道の

ひらけし時に逢へる身を

上野の山もひやくまで

鐵道唱歌の聲立てこ

上野

明治三十三年十月十日印刷
明治三十三年十月十三日發行

定價六錢
三集

作曲者 奥好義

作曲者 田村虎藏

著作者 大和田建樹

發行者 三木佐助

印刷者 野村宗十郎

東京賣捌 日本橋通三丁目林平次那
新橋竹川町共益商社
銀座三丁目十字屋書店

轉載譯譜謄寫不許



三木書店音樂書略目

<p>教育音樂講習會編纂文部省檢定濟 編新 教育唱歌集</p>	<p>東京音樂學校教授小山作之助編纂 撰新 國民唱歌集</p>	<p>大阪府師範學校教諭多梅稚編纂 編新 日本唱歌</p>	<p>理學博士田中正平校閱田村虎藏編纂 近 樂典教科書</p>	<p>大阪府女子師範學校長大村芳樹著 適用 遊戲之枝折</p>	<p>東京音樂學校教授山田源一郎著 圖解 ヴワイオリン指南</p>	<p>大阪府師範學校教諭多梅稚著 ヴワイオリン初步</p>
全二冊	全四冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊
定價各十二錢	定價各八錢	定價金十二錢	定價金四十錢	定價金六十錢	定價金五十錢	定價金四十錢